

第1回 大牟田市立学校適正規模・適正配置検討委員会（摘録）

【日時】 平成24年6月8日（金） 15:05～17:00

【場所】 北別館4階 第1会議室

【出席者】 検討委員会委員 18人（欠席1人）
教育委員会事務局 9人

【次第】 司会：学校再編推進室主査

1 開会

2 委嘱状交付

19人に委員委嘱。

3 教育長挨拶

4 委員紹介

名簿順に委員紹介後、教育委員会事務局職員の自己紹介を行った。

5 会議の公開

学校再編推進室長から、大牟田市審議会等の設置運営及び公開に関する要綱第7条第1項の規定に基づき、原則公開とすることを説明。会議録は検討委員会の承認を受けた後公開する。

6 議題

(1) 検討委員会設置要綱について

学校再編推進室長より説明。

(2) 委員長・副委員長選出

委員の推薦がなかったため、事務局から委員長に石川委員を、副委員長に後藤委員とする提案を行い、了承された。

(3) 委員長・副委員長挨拶

発言者	発言内容
委員長	本検討委員会の主旨を資料等を見て、職責の重要性を痛感しています。微力ですが、子どもたちのために、皆様方のご協力を得ながら会議を進めたいと思います。検討委員会の答申が将来生きるような会議にしたいと思います。ご協力をよろしくお願いいたします。
副委員長	副委員長を拝命し、責任の重さを感じています。皆様方と一緒に協議し、検討しながら、児童生徒の最善の方向を捜していきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

(4) 教育委員会諮問

教育長から委員長に諮問書を手交。

(5) 検討委員会のスケジュール（案）

発言者	発言内容
委員長	検討委員会のスケジュール案の説明を事務局からお願いします。
事務局	【資料に基づき、全体的なスケジュール及び検討委員会のスケジュール案を説明】

委員長	途中で中間報告のまとめをするのが特徴ではないかと思います。それを受けて保護者や地域の方々のご意見を、後半の検討に活かしていくということです。ご異論がなかったら、大体丸1年の予定なので、10回程度の検討委員会で、再編の考え方を出していくことでよろしいですか。
全委員	意見なし。
委員長	スケジュールについては概ね了解するというので次に移ります。

(6) 大牟田市における市立学校再編整備の経過について

発言者	発言内容
委員長	次は、大牟田市における市立学校再編整備の経過について、事務局から説明してください。
事務局	資料に基づきこれまでの市立学校再編整備に関する資料、人口推移～アンケート結果のポイントを説明。 ※アンケートの自由意見については、現在集約中であるため、後日報告する。
委員長	1つ目は、基本構想、基本計画、第一次実施計画、第二実施計画、これから検討委員会で審議する10年先についての学校再編の経過、2つ目は人口動態による児童生徒数が激減するということ、3つ目はアンケートについて、説明がありました。 基本構想、基本計画、第一次実施計画、第二実施計画の説明の中で、ご質問はございませんか。
委員	第二次実施計画に、延命・右京・船津中学校3校の再編があるが、それは白紙にして検討して良いものですか。 それと、1学級の児童生徒数は、アンケートでは先生、保護者は25人前後が望ましいという回答が多いが、小学校は35人以下、中学校は40人で考えるのですか。
事務局	中学校の再編については、教育委員会で第二次実施計画案を作って通学区域審議会に諮問し、合わせて保護者、地域に説明を行い、第二次実施計画を策定したものです。通学区域審議会からの答申では、中学校の3校での再編について必要性が認められるが、一部に強い異論があるので、保護者・地域の一定の理解が不可欠であるとされました。そこで計画の中では、中学校の全体的な今後の再編計画を示して、一定の理解を得ながら取り組みを進めるとしています。基本的には3校での再編には一定の承認をいただいていると理解しているが、それも含め、全体的な計画を示していただければと考えています。
委員	右京・船津・延命の中学校3校については、第二実施計画で計画ができていますので、検討委員会では省いて考えるのですか。それとも、もう1回考えるのですか。
事務局	第二次実施計画については、地域に出向いて保護者などに説明会を実施

	<p>しているので、計画は一定のところは浸透しているのではないかと思います。通学区域審議会の全体の流れ、それを受けた第二次実施計画が策定されているので、それらを踏まえて適正規模・適正配置を検討していただきたいと考えています。</p>
委員長	<p>今のが1番中学校再編の基本的な考え方になるので、押さえておかなければなりません。延命・右京・船津の中学校3校の再編については、第二次実施計画（案）に対し通学区域審議会から答申しているので、そのまま進める。そして、残りの中学校の再編を検討して理解を求めていくということによいでしょうか。3校の再編を検討委員会で検討するとなると、通学区域審議会の答申の意味がなくなります。しかし、現実には地域に反対がある。だから、全市的な中学校の再編計画の中で、延命・右京・船津の3校での再編についてご理解いただくようにしていくということで、基本的なことです。</p>
委員	<p>中学校の再編は、この3校を統合した場合が目安になると思います。それに沿って、ある程度の物事を考えていくことになると思います。それが、2校の再編でいいということになると、話が変わってくると思います。</p>
委員長	<p>基本的には3校の再編で進め、天道・笹原小学校、上官・大牟田小学校、上内・吉野小学校の再編も中学校と同様に考えながら進めていくということで理解してよろしいでしょうか。</p> <p>その他に、経過の中で何かご質問等ありませんか。</p>
事務局	<p>一昨年の夏に、国は中学校まで35人学級にしていくという計画を出しましたが、東北の震災の影響等もあり1年目で計画が動かなくなり、小学校も2年遅れで35人学級を実施するような状況にあります。今は消費税等で揉めているし、どうなるか将来像が見えません。</p> <p>そこで、今回お示ししている資料については、本市では現在小学校4年生まで35人学級を実施しています。5年生以上は国の考えがどうなるかわかりませんので、現在のところ40人学級で推移するものとして児童生徒数を推計しています。保護者は30人以下、35人以下学級を望まれているのは承知していますが、大牟田では市費で実施することは出来ませんので、国の制度により小学校4年生までは35人学級、5年生から中学生までは40人学級で推計により検討を進めていただければと思います。</p>
委員長	<p>学校の規模について国の動向を見ておくという意見でした。</p> <p>学校規模のあり方の資料を見ますと、平成9年から大牟田では学校再編に取り組んでいます。平成14年に基本構想、15年に基本計画を策定して具体的に再編対象校が示され、第一実施計画が実施されてみなど、天領小学校を開校し、現在第二次実施計画の取り組みを進めています。</p> <p>2番目に、児童生徒減・人口減が資料で示されています。まだまだ大牟田の人口は減っていくし、それは全国的傾向です。現在ほとんどの地域で学校再編が行われています。なぜ行かうかという、人口の増加が止まった段階だそうです。6年前に日本の人口は1億2774万人でピークでした。そのピークのときから全国津々浦々で学校の再編が進められ、人口が減った途端にどんどん再編が進められています。</p> <p>将来の推計からみると、中学校の規模の縮小も進みます。</p>

委員	産業が変わり、人口分布が変わりました。このまちはこの学校に行くとか、行政区、選挙区はこうだというのはありますが、ランドデザインは、小学校は小さい学校もあって、大きい学校もあっていいのではないのでしょうか。しかし、中学校は団体教育、クラブ活動などがあります。私は、中学校は理想的には5校か、多くても6校だと思っています。もともとこういう考えをしなかったから、右京中と船津中とが再編されても、10年後には小さい学校になります。そうするとまた、米生中と再編ということになるが、なぜ米生には大きな体育館があるのか。この検討委員会では、これまでの経過を踏まえながらランドデザインをある程度出していくべきではないかと思います。
委員長	今のご意見は、会議の進め方に対するご意見でもあろうかと思います。中学校にメインを置いて再編を進めると、小学校はどうなるかということです。小学校は中学校のように大きく再編をしなくても良いのではないかという意見もありました。会議の進め方として、中学校をメインに据えながら、小学校の再編を考えて行くという意見に対して、いかがでしょうか。
全委員	了承。
委員長	アンケートでは、小学校は2から3学級、中学校は3から4学級が良いという保護者の結果をみると、再編が必要です。しかし、1クラスは少人数の方が先生が目が届いて良いだろうという意見がありました。中学校は、保護者や生徒から見て、近い方が早く学校に着くし、途中で事故に遭わないので、近ければ近いほうがよい。今、再編が進んでいる天道・笹原では、交通死亡事故が発生しているので、地域の方が大変な努力をされています。スクールバスの問題も、場合によっては財政措置が必要になります。例に挙げると、八女市黒木町の大淵小学校では、山間部の4校が合併しました。1番小さい学校は全校生徒が18人でしたが、これをバスで集めて、新設校にしました。子どもたちから見ると、ある程度安全も含めて、スクールバスの財政措置が必要な場合は、検討委員会の答申に盛り込まなければなりません。また、中学校は部活動を2校で1チームにしている現状もあります。体育の授業では、1学年4学級であれば2学級ずつ合同で出来ますが、3学級では1学級での授業があります。1学級男子15人、女子18人であれば、サッカーの授業は出来ません。アンケートで何かお気づきになった点はありませんか。大体特徴が出ています。いろんな意見があるのも当然です。パーセントが多いから絶対いい、少ないから駄目ではありません。
	【5分休憩】

(7) 適正な学校の規模・配置について

発言者	発言内容
委員長	前半の話し合いの中身を整理して、次に進みたいと思います。 1つは、35人学級の国の動向を見ながら、方向性を出していく。 1つは、児童生徒数の推移。 1つは、現在進めている第二次実施計画の進捗状況を踏まえ、中学校の再編を中心に考えながら、小学校をセットで考えるという会議の進め方。

	<p>もう1つは、第二次実施計画に定められている中学校3校や小学校の再編は、検討委員会での検討にご理解いただきながら、一応計画通り進んでいくということで、中間答申をすることが今回の大きな特徴だと思います。</p> <p>そうすると、保護者や地域の方々からいろんな意見が帰ってきますので、検討委員会で十分配慮しながら検討していきます。そして、来年4、5月頃に長期的展望に立った学校再編の答申を行うということです。本日は、自由な意見を出していただき、次回はそれを焦点化して論議を深めたいと思います。委員の皆さんから自由に意見を出していただけると幸いです。</p>
委員	<p>確認ですが、適正規模・適正配置検討委員会では、平面的な話し合いを行っていくのですか。今、全国的に小中一貫校という問題も出ています。そのような議論もしてよいのでしょうか。</p>
委員長	<p>吸収合併だけでなく、小中一貫校も論議していいかということですが、当然、現実にはそういう問題が出てくるでしょうが、事務局どうですか。</p>
事務局	<p>検討委員会の中で、様々な角度から議論していただきたいと思います。小中一貫校、小中連携については、他の自治体でも再編に合わせて取り組んでいるところもあるかと思います。メリット、デメリットを含めて検討してよいのではないのでしょうか。</p>
委員長	<p>例えば、Aという中学校とB、Cという小学校が小中一貫校で、学校を中学校に置くということをおっしゃっていると思います。</p> <p>福岡市の舞鶴が小中一貫校です。論議し、必要があれば小中一貫校にするというのがひとつ。次回に焦点化して整理します。</p> <p>中学校は何校ぐらいにしたら良いかというのが1番の命題だと思います。地図をご覧ください。</p>
委員	<p>中学校11校中、炭鉱に関連する学校が6校です。</p>
委員長	<p>第二次実施計画で、右京・延命・船津の再編が計画されていますが、過去に右京から延命と船津が分かれているのが、元の鞘に収まります。学校の沿革史を調べると、橘から甘木が分かれました。田隈中は1番新しく生徒数も多いが、歴木中から分かれました。白光中もそうです。それが元の鞘に収まればよいというだけでは断ち切れない。再編の方法には、2校を1校に再編、4校を1校に再編、分校をつくるなど、10種類くらいのパターンがあるので、基になる考え方を整理していこうということです。それがクラスの人数、クラスの数です。中学校は第二次実施計画により11校が9校になります。</p> <p>他市では、筑後市の人口は4万8千人で、中学生は1500人で、ちょうど大牟田の半分です。筑後市の中学校は3校で、生徒数は400から500人でうまくいっています。ところが、隣の八女市は、旧八女市に学校は5校あり、それに星野、上陽、矢部、黒木、立花に学校が5校あります。その5校の規模は小さく、1番小さい矢部中学校は3クラスで35人ですが、簡単に合併はできません。</p> <p>荒尾市では、小学校12校を6校に、中学校5校を3校にしようとしています。みやま市は、新聞報道では山川でいろんな意見が出ています。それをきちんとご理解いただいて再編を成し遂げないと、住民の意見を無視してはできないと思います。そういうことを考えると、何か柱があると思</p>

	<p>います。それをどう作っていくかということです。次回の宿題になると思いますが、ぜひ考えて自由に意見を出していただきたいと思います。</p> <p>右京・延命・船津は近いと感じますが、再編に全員は理解していただいていません。松原の問題があります。勝立は大変生徒数が減ってきています。米生との合併の問題も考えられるかもしれませんが、距離が遠く、通学距離の問題があります。甘木と橘もそうです。しかし、このままでいいということはいえないと思います。</p> <p>〇〇委員、小学校に5地区というのがありますが、説明をお願いします。</p>
委員	1地区がみなと小学校から上内、吉野が4地区で白川辺りが4地区です。
事務局	小学校の再編が行われた結果、1地区がみなとと天領の2校になったため、3地区から大正と中友が移り現在4校になっています。
委員	地区でリレーの対抗などをされています。
委員	2地区は、駿馬南、駿馬北、笹原、天道、玉川です。
委員	5地区は手鎌、倉永、吉野、上内です。
委員長	次回、事務局で5地区の学校名と主な行事について、1つの資料として提示してください。
事務局	学校の沿革、5地区の学校名と主な行事、他市の小中学校の学校数、学級数や児童生徒数について資料を準備します。ほかに必要な資料はありませんか。
委員	対比できる資料を出していただければありがたいと思います。
委員長	中学校で部活の人数が足りず、2校で1チーム作っている部活はありますか。
委員	昨年、勝立中の女子バレーボール部は2人しか部員がいなかったもので、単独ではチームが出来ず、試合はもちろん練習もままならない状況で、米生中の練習に参加する機会が何度かありました。今年度は4人入部したので1チームでき、何とか自分の学校で練習しています。授業後、他校に練習しに行くのは大変そうだったので、何とかできればと考えていました。
委員	公式には、バレーボールで田隈中と歴木中が合同で地区大会に出た例はあります。他は、合同練習をしているところもあります。
委員長	他に、中学校の部活を合同でチームをつくったり、練習を行っているものはありますか。ブラスバンドは合同でしているのでしょうか。
委員	音楽の場合は、部員数で合同チームをつくるが、3校合同で大体同じ人数になるようチームを編成しています。
委員長	中学校の在り方については、平成21年に通学区審議会では学校規模と教育効果、学校規模と学校運営、学校規模と教育環境などを論議し、答申

	<p>しています。その後もどんどん生徒数が減っています。</p> <p>次回は中学校を中心に、柱立てを出していただけないでしょうか。ある程度学校数と学校の固有名詞を使いながら論議を進めてよろしいですか。中学校の数や、校区の編成し直しなどの方法の論議を柱の1つに据えたいと思います。</p>
委員	<p>〇〇委員が発言された3校が、かなり基本になります。面では延命と右京が隣同士だが地理的なことであって、容積からは松原と延命がいいという考え方もあります。教育の方は過去の歴史などから考え、そうでない人は日常の生活から考えるとか。延命・右京・船津が固まると、これが基本になると思います。私は、船津は米生と県南でまとまるべきではないかという考えを持っていました。3校が柱になると、今ある学校に新しい学校をつくらなければならないという考え方になってしまいます。30年後にどうあるべきかを考えると、行政がバックアップしながらまちをつくっていかなければならないと思います。</p>
委員	<p>民生委員は小学校区単位で選出されており、小学校が減ると、単位民児協が減り、地域との接触が減ります。小学校は1番身近な活動拠点なので極力残して、中学校や小中一貫などを考える。中学校の再編と言われても、私はどちらかという、延命・船津・右京は白紙に戻して1から考えていく方向でないといけないという気がします。</p>
委員長	<p>第二次実施計画案に対する通学区域審議会の答申はオープンになっています。これをまた元に戻すということは、地域住民から見たら、一貫性がなくなる。中学校3校の再編は計画どおり進めてもらい、検討委員会は検討を進めていく。その中で変更がある場合は、また理解を得なければなりません。第二実施計画は進めてもらわなければなりません。</p> <p>もうひとつは、民生委員の問題、公民館の問題も同じですが、特に大牟田では、コミュニティということで、高齢者の問題で民生委員の努力はすごい。その人たちの負担を増やしてはならないというのはあると思います。しかし、学校再編の中で能率的に民生委員の再構築をしていくかということも、公民館の問題なども合わせてぜひ意見を出していただきながら進めるべきではないかと思います。</p> <p>小学校は出来るだけ残すというご意見が出ました。中学校を中心に考え、小学校はできるだけ残すが、統計上から再編が必要な小学校は再編計画を出していくということでよろしいですか。</p>
委員	<p>様々なご意見があり、中には子どもの教育活動を考えると再編は遅すぎるという意見もあります。特に教育活動、クラブ活動などにすでに影響が出ているので、第二次実施計画は尊重しながら大局観に立って、中学校は何校いるのか考える必要があります。小学校もできるだけ残したいという思いはありますが、児童数の推計を見ると、大局観に立って考えないと数年後にまた同じことの繰り返しになるのではないかと思います。何度も再編をやり直すというわけにもいかないの、この検討委員会の役割は大切だと思います。</p>
委員長	<p>基本原則は守るべきです。小学校も必要に応じ再編をせざるを得ない。子どもたちのためにどれが一番よいかを基本に置きながら、地域住民、保護者の意見も尊重していきます。</p>

委員	通学区域の見直しも考えてよいのですか。ある程度今の校区の線引きを見直して、小学校を存続させるという方法もあると思います。
委員	今の通学区域は、おそらく人口分布で決められ、何十年も大牟田の基本になっており、これを検討しないと学校の適正規模、再編はなかなか難しいと思います。
委員長	学校の再編で、条例改正が出てきます。その中で通学区域の一部変更の改正をせざるを得ないと思います。
全委員	了承。

(8) 議事のまとめ、次回の進め方

発言者	発言内容
委員長	<p>次回は、自由に意見を出していただき、焦点化して話を煮詰め、中間報告を出していきたい。ただ、この検討委員会は非公開ではないが、具体的な学校の再編案については注意しながら進めましょう。</p> <p>今日は諮問を受け、資料をいただきましたので、次回の具体的な検討の課題になると思います。</p> <p>次回は、5地区の学校名と行事名、中学校の合同部活、試合の状況の資料を事務局から提出をお願いします。</p>
事務局	<p>次回は、6月下旬又は7月上旬の開催を考えています。日程を調整し、改めて連絡します。次回の資料として、学校の沿革、他市の資料、5地区の学校名と行事、中学校の合同部活などを準備します。</p>

7 閉会